

4月22日 朝礼にて

先週、授業参観でしたね。お父さんやお母さんが来てくれた人。たくさん手が挙がったね。じゃあ、家に帰ってから何か言われた人。はずかしいかな？

授業参観の時には、とってもきちんと授業を受けていました。「頑張るぞ」という気持ちが表れていました。6年生は今週末、修学旅行ですね。説明会はとっても楽しそうで、いい感じでした。

今日は、ちょっと難しいお話しをします。週末に「博士の愛した数式」という本を読みました。数学の得意な学者＝博士のお話です。その人が、数学＝算数のもっと難しい学問ね、それが得意な人が、交通事故にあって、記憶が80分しかもたなくなってしまうました。その博士と、その博士の家にくるお手伝いさんと、お手伝いさんの小学生の息子のお話しです。

この博士は、記憶が80分しかもちませんから、2時間前にあったことなんか、完全に忘れてしまっています。だから、お手伝いさんが博士の所に行って、帰って、次の日また博士の所に行くと、「あなた誰」と言うことになってしまいます。日常生活のことは、2時間前のことがわからないんだけど、事故にあった30年前よりも前のことは良く覚えています。だから、数学の難しい問題もすらすら解けるんです。例えば、28という数字があります。この数字は約数で割っていくと、最終的にその約数の合計が28になってしまうんです。こういう数字を完全数といいます。28を1で割ると28、2で割ると14、・・・14で割ると2、この割った数を全部足すと28に戻ってしまうんです。そして、こういう数字は28しかないんです。こんなことも、知っているんです。

この博士が、80分しか記憶がもたないから、どうしたか

という、どうしたと思う？付せんって知ってるよね。紙にのりがついていて、そこにメモをして貼っておくやつです。その付せんをいっぱい使って、たとえば、お手伝いさんの似顔絵を描いて「この人がお手伝いさん」とメモをして貼っておくのです。それでも、記憶が80分しかもたないもんだから、友だちとかはできなかつたし、お手伝いさんもなかなか続かなかつたんです。

さて、このお手伝いさんの子は、先生みたいに、いっつも寝癖がついていて、そのせいで頭の形が√（ルート）に似ているから、博士があだ名をルートと付けました。そして、付せんに似顔絵を描いてルートと書いておきました。そんな風にして、覚えようと思ったのです。その小学生も、どうして仲良くなれたか。記憶をなくした博士でも、仲良くなろうと努力したんです。また、博士も楽しいから、一生懸命キャッチボールをしたりお話をしたりして交流を深めたからなんです。そして、その子は、その後どうなったか。高校の数学教師になりました。記憶のつながらない博士と一緒にいて、たくさんのことを学んで数学が大好きになったからなんです。ちょっと難しい話しでしたが、担任の先生にもお願いしておきますので、分からない所があったら聞いてください。

これでお話を終わります。